

## 研修コースの概要

- 1 いちご高設栽培コース（高設栽培装置を使用した、いちごの促成栽培）
  - ・ 247 m<sup>2</sup> (6.5m×38m) のハウス内に設置した高設ベッド（地上1mくらいの高さで、腰をかかめずに栽培管理が可能）を用いていちごの養液土耕栽培を行い、技術を習得する。
  - ・ 苗は9月に定植し、12月から5月にかけて収穫出荷を行う。
  - ・ ハウスには温風暖房機や炭酸ガス発生装置等の環境制御機器を整備しており、温湿度やCO<sub>2</sub>濃度等の環境制御技術を用いたいちごの栽培管理技術を習得する。
  - ・ いちご苗、肥料、資材、灯油、電気等の費用負担が必要（概算100万円程度）。
  - ・ 収穫期間中はほぼ毎日収穫作業と出荷作業が必要。
  - ・ 出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等で自身による交渉が必要。
- 2 果菜類周年栽培コース  
（暖房設備、養液土耕装置を使ったトマト周年栽培またはいちご土耕栽培）
  - ・ 247～299 m<sup>2</sup> (6.5m×38～46m) のハウス内に、トラクタで畝を立て、トマトまたはいちごの養液土耕栽培を実践することで、栽培管理技術を習得する。
  - ・ 温風暖房機や炭酸ガス発生機等による温湿度やCO<sub>2</sub>濃度等の環境制御技術と、養液土耕装置を用いた肥培管理技術を習得する。
  - ・ トマトは9月定植の長期穫りまたは、抑制栽培（9月定植）＋半促成栽培（3月定植）を組み合わせた年2作の栽培を行う。いちごは9月に苗を植え付け、12月～5月に収穫を行う。
  - ・ 苗、肥料、資材、灯油、電気等の費用負担が必要（概算100万円程度）。
  - ・ 収穫期間中は、ほぼ毎日収穫作業と出荷作業が必要。
  - ・ 出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等で自身による交渉が必要。
- 3 無加温施設栽培コース  
（無加温のビニールハウスを使った、葉物野菜やトマト等果菜類等の野菜周年栽培）
  - ・ 230～260 m<sup>2</sup> (6.5m×35～40m) の無加温ハウスで、トラクタで畝を立て、葉物野菜やトマト等果菜類等を組み合わせた野菜の周年栽培を実践することで、栽培技術を習得する。
  - ・ 葉物野菜は9月～7月に栽培する。果菜類はトマト（9月植、3月植）、きゅうり（9月植、3月植）、いちご（9月植）等の栽培ができるので自分で作付計画を立て栽培する。
  - ・ 苗、種、肥料、資材、電気代等の費用負担が必要（概算、最低30万円程度）。
  - ・ 栽培管理及び収穫出荷作業のため、ほぼ毎日ハウス管理が必要。
  - ・ 出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等で自身による交渉が必要。
- 4 有機栽培コース（ビニールハウスを使った、化学的に合成された肥料や農薬を使用しない野菜類の栽培）
  - ・ 120 m<sup>2</sup> (6m×20m) のハウス2棟、または260 m<sup>2</sup> (6.5m×40m) のハウス1棟で、トラクタで畝を立てて、葉物野菜や果菜類、根菜類、結球野菜等を栽培し技術を習得する。
  - ・ 苗、種、肥料、資材、電気代等の費用負担が必要（概算、最低30万円程度）。
  - ・ 肥料はJAS有機基準に適合したものを使用する。
  - ・ 栽培管理及び収穫出荷作業のため、ほぼ毎日ハウス管理が必要。
  - ・ 出荷先は直売所、スーパーマーケット、量販店等で自身による交渉が必要。
- 5 全コース共通（露地栽培）

ほ場面積は約200 m<sup>2</sup>で、自身で作付け計画を立て、栽培管理から収穫・出荷作業までを実践する。有機栽培コースの研修生は農薬・化学肥料を使用しない野菜類の栽培を行う。

栽培品目については、令和6年度時点で、共同育苗・出荷の対象品目は「トマト」となっており、原則栽培を行うこと。「イチゴ」、「メロン」、「キュウリ」は希望者のみの栽培。